

第 35 回

パチンコ景気動向指数 (DI)

調査結果

DI (Diffusion Index) とは？

パチンコ業界における景気動向を把握するため、平成 12 年 6 月より四半期 (3、6、9、12 月) ごとに実施している調査。

今回の調査について

1. 調査対象： A c l u b 会員 (エンタテインメントビジネス総合研究所の会員制情報提供サービス会員) ほか、全国の有力パチンコ店経営企業
日本遊技関連事業協会、パチンコ・チェーンストア協会、日本遊技産業経営者同友会、余暇環境整備推進協議会の調査協力を得て実施。
2. 実施時期： 2008 年 12 月 15 日 ~ 2008 年 12 月 25 日
3. 調査方法： F A X にて送付・回答
4. 回収状況： 有効回収数 75 社

2009 年 1 月

調査結果のポイント

全般的概況はマイナス 33.0 と大きく後退

現況(平成 20 年 12 月)の各社の業況判断DI値は、マイナス 33.0 と前回調査時の 5.8 から、38.8 ポイントの大幅悪化となった。

見通し(3ヶ月後)については、マイナス 29.7 と先行きへの不安を尚残している。

< 昨年 12 月期以降、プラス圏で推移していた大規模事業者もマイナス圏に転落 >

経営規模別にみると、小規模事業者でDI値マイナス 46.9 と前回から 34.4 ポイントの悪化。中規模事業者でDI値マイナス 14.7 と前回から 9.0 ポイントの悪化。大規模事業者はDI値マイナス 40.0 と前回から 73.3 ポイントの悪化となっている。

見通し(3ヶ月後)では、小規模事業者(マイナス 37.5)、中規模事業者(マイナス 29.4)、大規模事業者(マイナス 20.0)と、大・小規模事業者で現況より数値改善となっているものの、各規模ともにマイナス圏での推移となっている。

パチンコ現況は悪化、各規模事業者ともに下げる

パチンコの稼動状況のDI値はマイナス 26.7 と、前回の 21.6 から 48.3 ポイントの大幅悪化となった。例年 3 月期に上昇し、その後は下降線を辿る傾向にあったが今年に変化が見られた。

9 月期には、「CR 北斗の拳」をはじめとするいわゆる MAX タイプパチンコ機の導入効果等により業況は一時的に改善した。しかし、10 月下旬に、日経平均株価がバブル崩壊後最安値を更新するのと相前後して雇用情勢の悪化が急激に進み、不況ムードが社会を包み込んだ。12 月期は、その影響が現れる結果となった。

前 9 月期と比べると、小規模事業者は 51.6 ポイントの減少、中規模事業者は 23.3 ポイントの減少、大規模事業者は 68.4 ポイントの減少と各規模ともに下げている。

尚も低迷続くパチスロ市況

パチスロの稼動状況のDI値はマイナス 47.3 と、前回のマイナス 42.7 からは 4.6 ポイントの悪化となっている。3 月期はやや持ち直したものの、5 号機時代を迎えて以降パチスロ市況は低迷を続けている。

前 9 月期と比べると、小規模事業者は 3.2 ポイントの悪化、中規模事業者は 10.0 ポイントの改善、大規模事業者は 19.0 ポイントの悪化となっている。

見通し(3ヶ月後)は、マイナス 56.0 と、尚厳しいものとなっている。

大規模中心に底堅い投資意欲、中規模で高い新規借入先・調達手段検討

新規出店や設備投資への意欲が「大いにある」割合は、大規模事業者 27.3%、中規模事業者 13.8%、小規模事業者 9.4%と、大規模事業者を中心として底堅いものがある。小規模事業者では、「減少した」の 37.5%が目立っている。

既存取引金融機関以外に新たな金融機関もしくは資金調達手段検討の意向(「ある」と「検討したい」合計の割合)は、中規模事業者 56.7%、小規模事業者 43.8%、大規模事業者 36.4%と非常に高い。

景況キーワード

不況の影響、集客力ダウンに大きな懸念

『バブル後の不景気と違うのは、今回は製造業が不況の影響をもろに受けているのが大きな違いである。パチンコ業界も不況下での競争となるのでいよいよ正念場となる。』や『ここ最近、お客様から「景気悪化、株価暴落、派遣切りなど、日本全体が大変な時期にパチンコなんてやっているといいのだろうか」という声をいくつか聞いた。』といった意見にあるように、年明け以降集客が益々困難になるとの認識が広まっている。

景気後退局面で、足元固めに注力。ゴトへの警戒も

『百年に一度とされるこの状況を乗り切るには、経営者一人の力では不可能と考え、社員教育に注力している。』と、今までにない厳しい環境に備えて足元固めをしていくとの意見が見られる。また、『世界的な不況がパチンコ業界の業績に影響を与えるのはこれから。職を失った人が不正に手を染め、ゴト師や打ち子になっていくことも危惧している。』のように、ゴトへの警戒心も強まっている。

< 主要指標 パチンコ業界全体 >

項目	D.I. 値			業界天気		コメント
	前回現状	現状	見通し	現状	見通し	
1. 全般的業況	5.8	-33.0	-29.7	 ⇨ 		全般的業況は一転雷に。見通しは雨。
2. 稼働状況 (パチンコ)	21.6	-26.7	-28.9	 ⇨ 		現況は薄曇りから雨に悪化。先行き見通も引き続いて雨。
3. 稼働状況 (パチスロ)	-42.7	-47.3	-56.0	 ⇨ 		現況引き続いて雷雨。先行き見通しも雷雨で、数値悪化。
4. 資本投入気運の変化 (台)	-2.2	-10.8	9.5	 ⇨ 		現況は曇りから雨に悪化。見通しは曇。
5. 資本投入気運の変化 (設備)	-2.2	-16.2	-13.5	 ⇨ 		現況は曇りから雨に悪化。見通しも雨模様。
6. 営業用設備の不足感	-1.0	2.2	0.0	 ⇨ 		設備不足感はほぼ横ばい。見通しも小康状態を保つ。
7. 雇用人員の不足感	21.4	17.6	11.0	 ⇨ 		人材不足感はやや和らぐ。見通しは横ばい圏内。

注：前回現状は2008年9月調査時の結果

天気記号使用基準

記号	数値	記号	数値
 晴れ	30.0 ~	 雨	-29.9 ~ -10.0
 薄曇り	10.0 ~ 29.9	 雷雨	~ -30.0
 曇り	-9.9 ~ 9.9		

全般的概要 - 業況

業況判断DI値はマイナス33.0と大きく後退

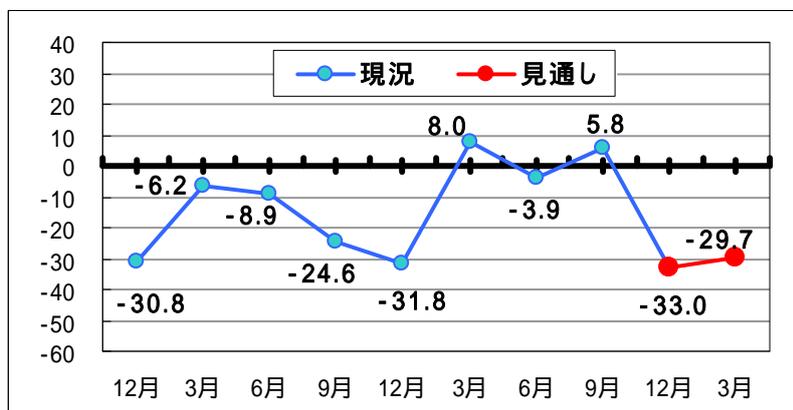
現況(平成20年12月の業況判断)は「良い」が17.9ポイント減少して4.4%となり、「悪い」が20.9ポイント増加して37.4%となり、DI指数はマイナス33.0と前回の5.8から、38.8ポイントの大幅悪化となった。

前9月期は、「CR北斗の拳」をはじめとするいわゆるMAXタイプパチンコ機の導入効果等で利益確保ができていたが、今12月期は過去と同じ年末にかけての下降曲線をたどった。

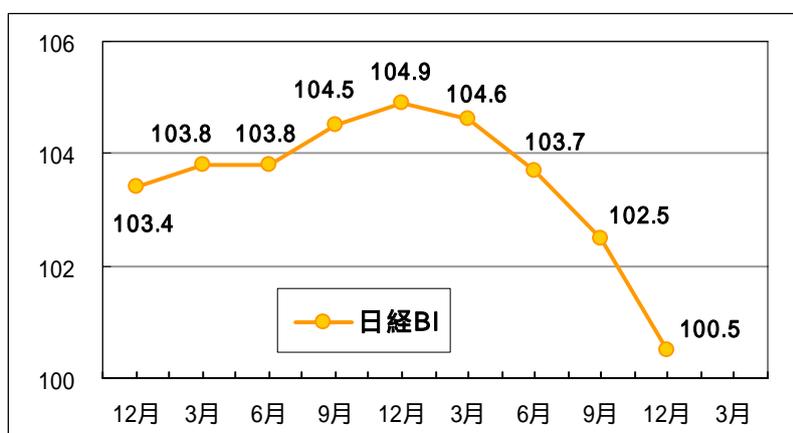
見通し(3ヶ月後)については、マイナス29.7と先行きへの不安を尚残している。

代表的な民間の景気動向指数である「日経BI」10月速報値は、前月から1.4ポイント低下し100.5(2005年平均=100)となった。低下は3カ月連続で、下落幅が2カ月ぶりに1ポイントを超える大きな落ち込みとなった。日経BIが07年10月の105.4をピークに下落局面に入って1年が経過したが、ここに来て悪化の度合いは一段と強まっている。10月は、日経BIを構成する鉱工業生産、商業販売額、所定外労働時間、有効求人倍率の指標がすべて悪化した。

< 現況の推移と見通し >



< 日経景気インデックスデータ (日経BI) >



インデックスデータは、1 - 3月の平均を3月に示した。直近の12月は10月速報値。

日経景気インデックス(日経BI)
 景気動向を反映する生産、需要、所得、労働の4つの側面を代表する指標(鉱工業生産、商業販売額、所定外労働時間、有効求人倍率)から共通する「景気の波」を抽出したもの。「景気」そのものの変化方向と水準を表す。構成要素の4指標はすべて翌月末までに公表されるため速報性に優れている。
 BIはビジネス・インデックス(Business Index)の略。(2005年7月=100)

全般的概況 - 判断理由と経営上の課題

悪業績の理由、約8割が『来店客数の減少』

業況判断を「悪い」(37.4%)と下した理由は、『来店客数の減少』(78.6%)、『店舗数の増加』(10.7%)の順となっている。

小規模では『時間帯・曜日などの客の偏り』『資金調達』が上昇

経営上の問題点の上位項目で、全体で前回より回答率が上昇したのは『公的な規制』(20.5%:8.9ポイント上昇)、『時間帯・曜日などの客の偏り』(28.8%:5.5ポイント上昇)、などとなっている。

事業者の規模別にみると、小規模事業者では、『時間帯・曜日などの客の偏り』(40.6%)が15.6ポイント上昇し、『他の同業他社との競争激化』(53.1%)に次いで2位に浮上している。また、『資金調達』(37.5%)も12.5ポイントの上昇となっている。

『公的な規制』については、唯一事業規模を問わず前回と比べて回答率が高くなっている。具体的なコメント等は寄せられていないが、MAXタイプパチンコ遊技機開発への規制が入ったことなどが含まれているものと思われる。

< 経営上の課題 >

項目	全体 (6月)	全体 (9月)	全体 (12月)	小規模 事業者	中規模 事業者	大規模 事業者
他の同業他社との競争激化	50.0%	62.8%	57.5%	53.1%	58.6%	66.7%
人材教育・育成	51.4%	55.8%	45.2%	37.5%	51.7%	50.0%
資金調達	39.2%	26.7%	31.5%	37.5%	31.0%	16.7%
時間帯・曜日などの客の偏り	21.6%	23.3%	28.8%	40.6%	24.1%	8.3%
設備・運営費の増加	23.0%	29.1%	27.4%	18.8%	37.9%	25.0%
公的な規制	14.9%	11.6%	20.5%	21.9%	17.2%	25.0%
不明瞭な行政指導	23.0%	18.6%	20.5%	21.9%	17.2%	25.0%
人材不足・人材確保	29.7%	32.6%	16.4%	15.6%	10.3%	33.3%
人件費の増加	13.5%	11.6%	13.7%	3.1%	20.7%	25.0%
組合の自主規制	5.4%	7.0%	11.0%	12.5%	13.8%	0.0%
料金改定が困難	5.4%	2.3%	1.4%	0.0%	3.4%	0.0%

注：小規模事業者 = 1～3店舗 中規模事業者 = 4～10店舗 大規模事業者 = 11店舗以上

全般的概要 - 稼働状況

パチンコ現況は悪化、各規模事業者ともに下げ

現況の稼働状況はマイナス 26.7 と、前回の 21.6 から 48.3 ポイントの大幅悪化となった。例年3月期に上昇し、その後は下降線を辿る傾向にあったが今年は変化が見られた。

9月期には、「CR 北斗の拳」をはじめとするいわゆる MAX タイプパチンコ機の導入効果等により業況は一時的に改善した。しかし、10 月下旬に、日経平均株価がバブル崩壊後最安値を更新するのと相前後して雇用情勢の悪化が急激に進み、不況ムードが社会を包み込んだ。12 月期は、その影響が現れる結果となった。

見通し(3ヵ月後)はマイナス 28.9 となっており、引き続き厳しい数値となっている。

現況の稼働状況を規模別にみると、小規模事業者(1~3店保有)がマイナス 38.7、中規模事業者(4~10 店舗)がマイナス 17.4、大規模事業者(11 店舗以上保有)がマイナス 24.0 となっている。

前9月期と比べると、小規模事業者は 51.6 ポイントの減少、中規模事業者は 23.3 ポイントの減少、大規模事業者は 68.4 ポイントの減少と各規模ともに下げている。

尚も低迷続くパチスロ市況

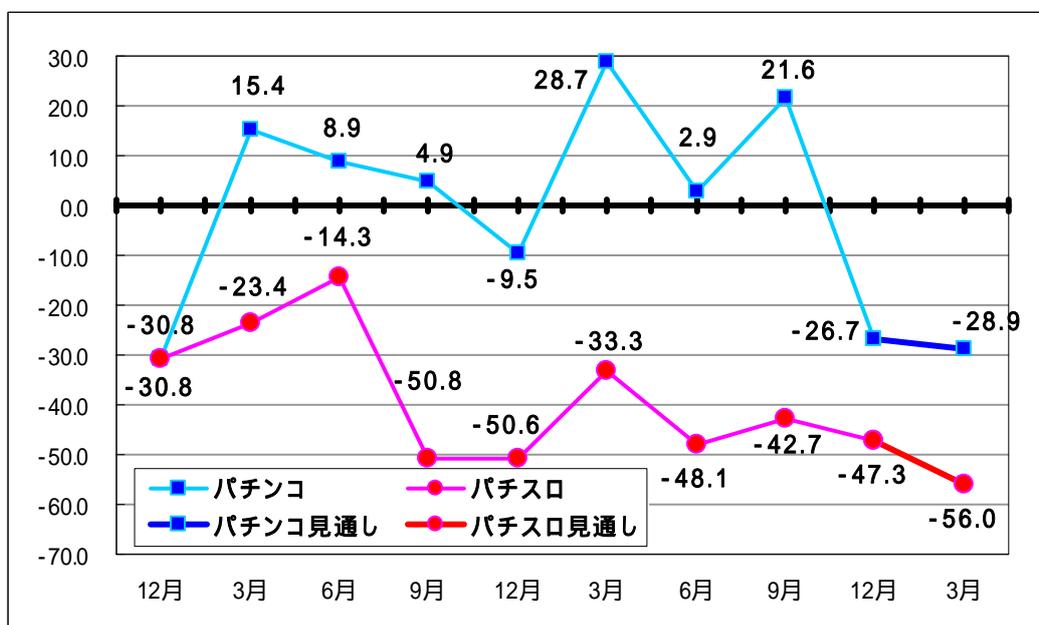
現況の稼働状況は、マイナス 47.3 と、前回のマイナス 42.7 からは 4.6 ポイントの悪化となっている。3月期はやや持ち直したものの、5号機時代を迎えて以降パチスロ市況は低迷を続けている。

見通し(3ヶ月後)は、マイナス 56.0 と、尚厳しいものとなっている。

現況の稼働状況を規模別にみると、小規模事業者(1~3店保有)がマイナス 43.8、中規模事業者(4~10 店舗)がマイナス 52.9、大規模事業者(11 店舗以上保有)がマイナス 44.0 となっている。

前9月期と比べると、小規模事業者は 3.2 ポイントの悪化、中規模事業者は 10.0 ポイントの改善、大規模事業者は 19.0 ポイントの悪化となっている。

< 稼働状況の推移と見通し (パチンコとパチスロ) >



地域別の業況

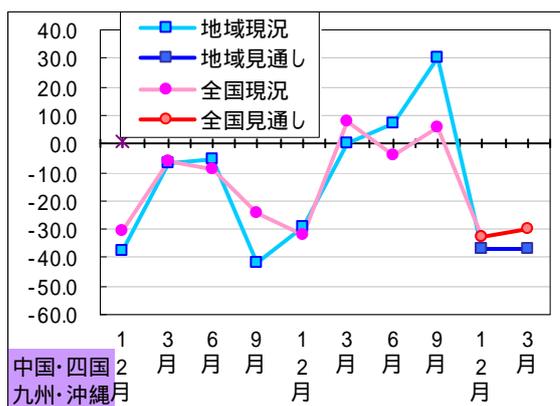
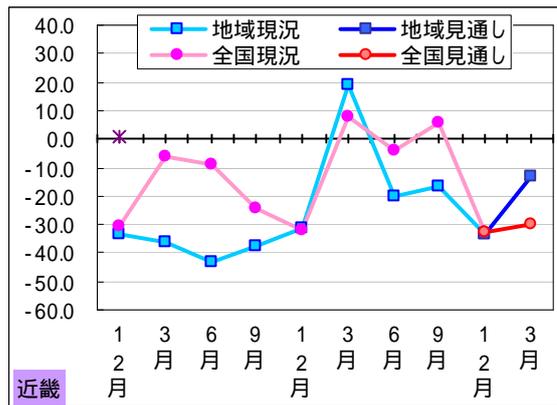
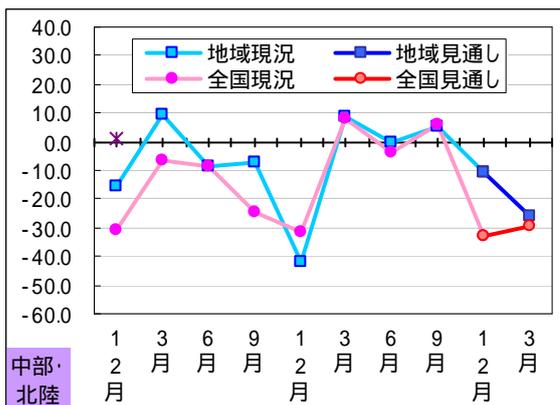
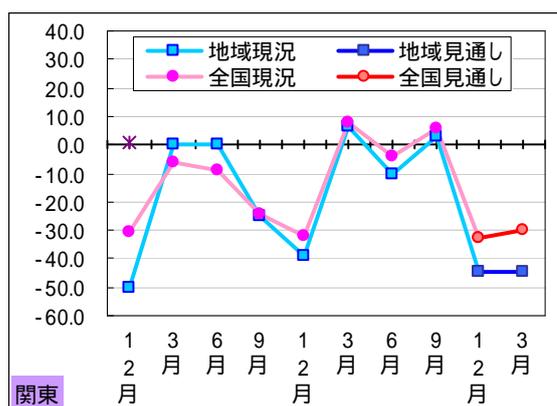
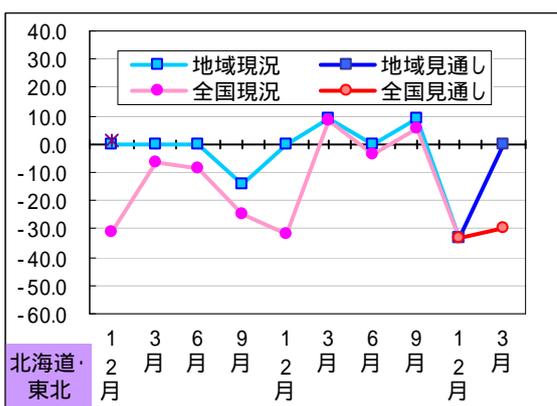
全地区ともに現況悪化、見通しは±0の「北海道」を除いてマイナス圏に

現況のDI値は、全地区ともに数値を下げマイナス圏に。最も数値の良い「中部・北陸」でもマイナス10.5。その他地区はマイナス30からマイナス40と厳しい数値となっている。

見通し(3ヶ月後)については、±0.0の「北海道・東北」を除いて、全てマイナス圏の数値となっている。

<地域別 業況>

地区別の集計母数は以下。北海道・東北(9)、関東(29)、中部・北陸(19)、近畿(15)、中国・四国・九州・沖縄(19)



規模別業況

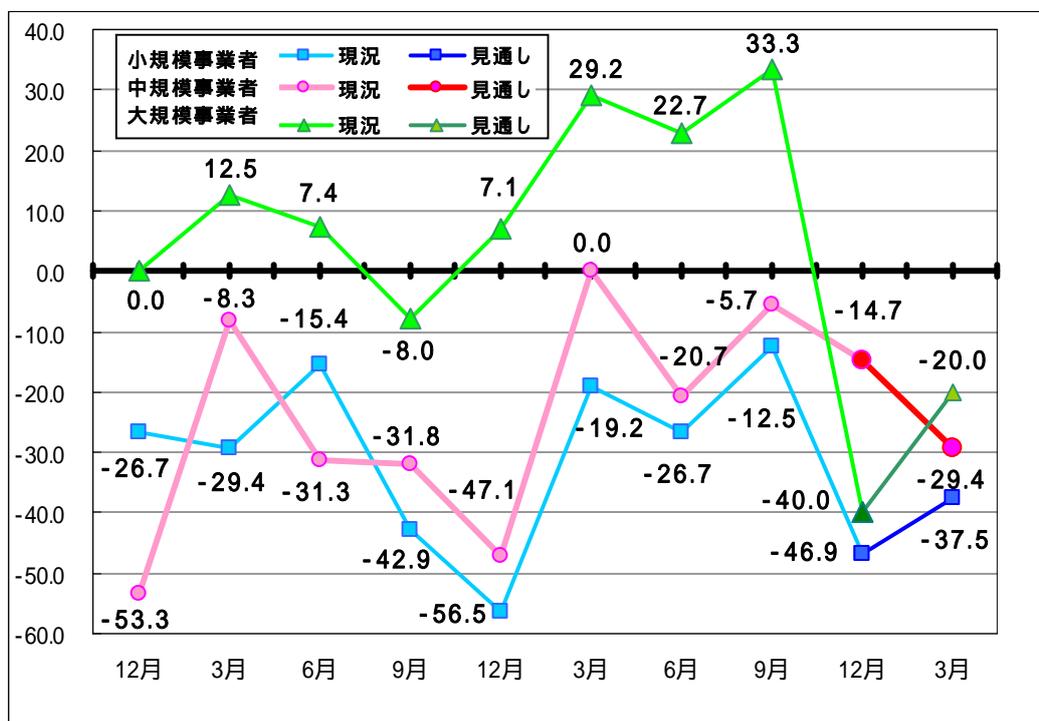
各規模で現況悪化、見通しは各規模ともにマイナス圏

現況の業況判断を規模別にみると、小規模事業者でDI値マイナス46.9と前回から34.4ポイントの悪化。中規模事業者でDI値マイナス14.7と前回から9.0ポイントの悪化。大規模事業者はDI値マイナス40.0と前回から73.3ポイントの悪化となっている。

昨年12月期以降、プラス圏で推移していた大規模事業者も、今12月期はマイナス圏に転落した。

見通し(3ヶ月後)では、小規模事業者(マイナス37.5)、中規模事業者(マイナス29.4)、大規模事業者(マイナス20.0)と、大・小規模事業者で現況より数値改善となっているものの、各規模ともにマイナス圏での推移となっている。

< 規模別：業況の推移と見通し >



注：小規模事業者 = 1 ~ 3 店舗 中規模事業者 = 4 ~ 10 店舗 大規模事業者 = 11 店舗以上

資金需要と資金調達について

大規模中心に底堅い投資意欲、中規模で高い新規借入先・調達手段検討

新規出店や設備投資への意欲が「大いにある」割合は、大規模事業者 27.3%、中規模事業者 13.8%、小規模事業者 9.4%と、大規模事業者を中心として底堅いものがある。小規模事業者では、「減少した」の37.5%が目立っている。

一方で、資金繰り(「楽である」の構成比マイナス「苦しい」の構成比)や貸し出し態度(「緩い」の構成比マイナス「厳しい」の構成比)は、10頁にあるように、12月期の状況は決して楽なものではない。

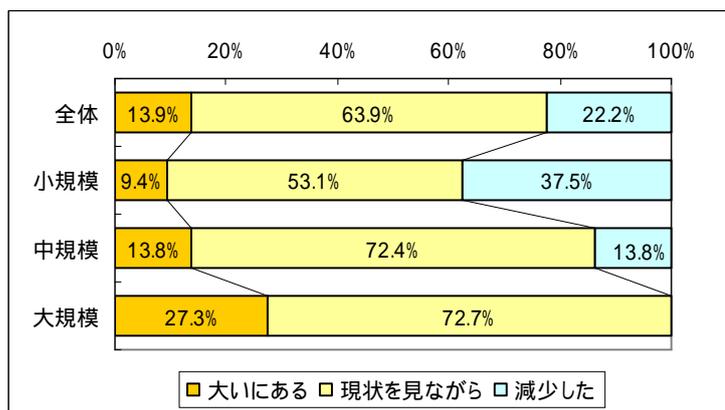
既存取引金融機関以外に新たな金融機関もしくは資金調達手段検討の意向(「ある」と「検討したい」合計の割合)は、中規模事業者 56.7%、小規模事業者 43.8%、大規模事業者 36.4%と非常に高い。

現況の主要取引金融機関(複数回答)は、下表の通りとなっている。

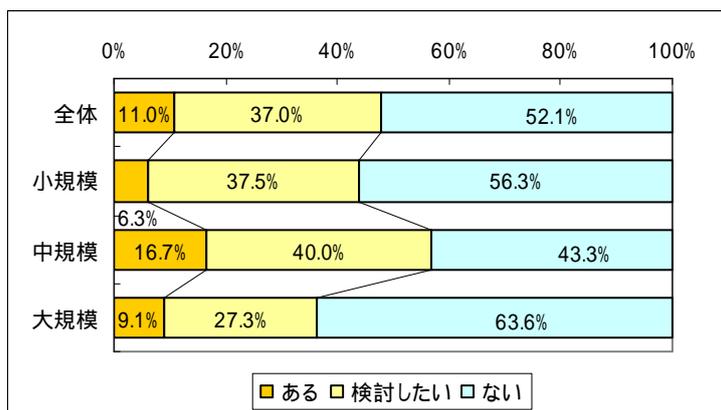
<自由回答より主な意見を抜粋掲載>

- ・資金調達に関しては、不透明な状態がまだまだ続くと思う。取引銀行担当者によれば、行内の我々に対する投資マインドは、限りなくゼロに近いとのこと。
- ・キャッシュフロー確保のためには、機械の償却、除却があまりにも負担となる。結果ホールは減収増益経営をせざるを得ない。
- ・キャッシュフローの中で可能な営業に努めること。借金で拡大する時代は終わった。無借金を目指す。
- ・パチスロからパチンコ、低貸玉営業等業態開発投資や分煙化等店舗環境改善検討と、資金需要は底固いものの、現状金融機関からの借入は困難なため、新たな資金調達方法を探索している。
- ・取引銀行がダイヤモンド社による「銀行経営危険度ランキング」において上位にランキングされており、心配される。
- ・各リース会社の対応急変が問題。

<新規出店もしくは設備更新の意欲>



<新たな借入先・資金調達手段の検討意向>



注：小規模事業者 = 1～3店舗 中規模事業者 = 4～10店舗 大規模事業者 = 11店舗以上

<現在の主要取引金融機関>

項目	全体	小規模事業者	中規模事業者	大規模事業者
都市銀行	52.1%	31.3%	66.7%	72.7%
地方銀行	65.8%	50.0%	73.3%	90.9%
信用金庫等	49.3%	53.1%	60.0%	9.1%
ノンバンク	11.0%	0.0%	23.3%	9.1%
外資系金融機関	1.4%	3.1%	0.0%	0.0%

注：小規模事業者 = 1～3店舗 中規模事業者 = 4～10店舗 大規模事業者 = 11店舗以上

調査結果概要 DATA

規模（店舗数）別

項目	DI 値区分	小規模事業者			中規模事業者			大規模事業者		
		前回	現状	見通し	前回	現状	見通し	前回	現状	見通し
1. 全般的業況		-12.5	-46.9	-37.5	-5.7	-14.7	-29.4	33.3	-40.0	-20.0
2. 稼働状況（パチンコ）		12.9	-38.7	-25.8	5.7	-17.6	-32.4	44.4	-24.0	-28.0
3. 稼働状況（パチスロ）		-40.6	-43.8	-53.1	-62.9	-52.9	-70.6	-25.0	-44.0	-40.0
4. 資本投入気運の変化（台）		0.0	-6.3	3.1	-5.6	-9.7	19.4	0.0	-27.3	-27.3
5. 資本投入機運の変化（設備）		-3.1	-25.0	-12.5	-11.1	-12.9	-9.7	14.3	0.0	-27.3
6. 営業用設備の不足感		9.4	9.4	6.3	-5.7	-2.9	-5.9	-5.6	0.0	0.0
7. 雇用人員の不足感		28.1	15.6	9.4	22.9	26.5	17.6	13.9	8.0	4.0

注：小規模事業者 = 1～3店舗 中規模事業者 = 4～10店舗 大規模事業者 = 11店舗以上

地域別

項目	DI 値区分	北海道・東北			関東			中部・北陸		
		前回	現状	見通し	前回	現状	見通し	前回	現状	見通し
1. 全般的業況		9.1	-33.3	0.0	2.9	-44.8	-44.8	5.0	-10.5	-26.3
2. 稼働状況（パチンコ）		27.3	-11.1	-22.2	29.4	-48.3	-44.8	15.8	-5.6	-11.1
3. 稼働状況（パチスロ）		-36.4	-44.4	-33.3	-47.1	-41.4	-55.2	-60.0	-42.1	-52.6
4. 営業用設備の不足感		-9.1	11.1	22.2	5.9	10.3	0.0	-5.0	-5.3	-10.5
5. 雇用人員の不足感		9.1	0.0	0.0	23.5	13.8	17.2	10.0	10.5	5.3

項目	DI 値区分	近畿			中国・四国・九州・沖縄		
		前回	現状	見通し	前回	現状	見通し
1. 全般的業況		-16.7	-33.3	-13.3	30.0	-36.8	-36.8
2. 稼働状況（パチンコ）		-5.6	-20.0	-20.0	35.0	-26.3	-31.6
3. 稼働状況（パチスロ）		-50.0	-66.7	-66.7	-15.0	-47.4	-63.2
4. 営業用設備の不足感		-11.1	6.7	6.7	5.0	-10.5	5.3
5. 雇用人員の不足感		38.9	33.3	6.7	20.0	26.3	-15.8

営業用設備の不足感、雇用人員の不足感が強いほどに設備投入機運の採用、活用に結びつくものであり、業況は改善に向かうものと判断される

資金繰り等の現況推移

項目	パチンコ業界全体			小規模事業者			中規模事業者			大規模事業者			
	対象時期	6月調査	9月調査	12月調査	6月調査	9月調査	12月調査	6月調査	9月調査	12月調査	6月調査	9月調査	12月調査
資金繰り		-18.7	-5.6	-13.5	-44.8	-15.6	-34.4	-29.6	-8.3	6.5	36.8	14.3	-16.7
貸出態度		-37.8	-43.8	-35.6	-51.7	-50.0	-45.2	-50.0	-50.0	-32.3	0.0	-23.8	-18.2
借入金利		-14.7	-12.8	0.0	-13.8	-16.7	0.0	-11.1	-11.4	3.2	-21.1	-9.5	-9.1

注：小規模事業者 = 1～3店舗 中規模事業者 = 4～10店舗 大規模事業者 = 11店舗以上

SERVICE

提供商品

Entertainment Business Institute



基礎研究・応用研究

コンサルティング・講演・勉強会

・経営支援・人材育成・店舗運営・事業企画、開発

パーラー向け会員サービス「**Aclub®**」

・電子メール、FAX情報提供・セミナー優待

出版・研究報告書

・パチンコ参加実態調査
・駅別乗降者数総覧<年刊>
・研究報告書、関連書籍

インターネット・システム構築

・社内ネットワーク設計
・ホームページ制作、運用支援

カジノ関連

・UNLVエグゼクティブセミナー
・カジノ視察ツアーコーディネート

第36回 パチンコ景気動向指数（DI）調査に ご協力を

業界四団体が協力

本調査は

- ・日本遊技産業経営者同友会
- ・日本遊技関連事業協会
- ・パチンコ・チェーンストア協会
- ・余暇環境整備推進協議会

の業界4団体のご協力を得て実施しております。

金融機関も参考にするデータ

最近では、銀行、証券会社等からの本調査に関するお問合せも増えており、パチンコ業界の業況を示すデータとしてその重要性は高まっています。

ぜひ、本調査にご協力ください。

貴社のデータが加わることで、よりパチンコ業界の現況を正しく業界の内外に伝えることが可能になります。

ご協力をいただける方は下記にご記入のうえ

F A X : 0 3 - 5 6 8 8 - 5 3 5 3 へご返信ください。

次回(3月)に調査用紙をご送付いたします。

御社名		店舗名	
御担当者役職		御名前	
電話番号		ファックス番号	
メールアドレス			

ご記入いただいた情報はエンタテインメントビジネス総合研究所よりの調査依頼のご送付に利用いたします。調査に関連して、ご連絡を差し上げる場合もあります。



株式会社エンタテインメントビジネス総合研究所
<http://www.eb-i.jp> メール：info@eb-i.jp
電話：03-5688-4751 ファックス：03-5688-5353